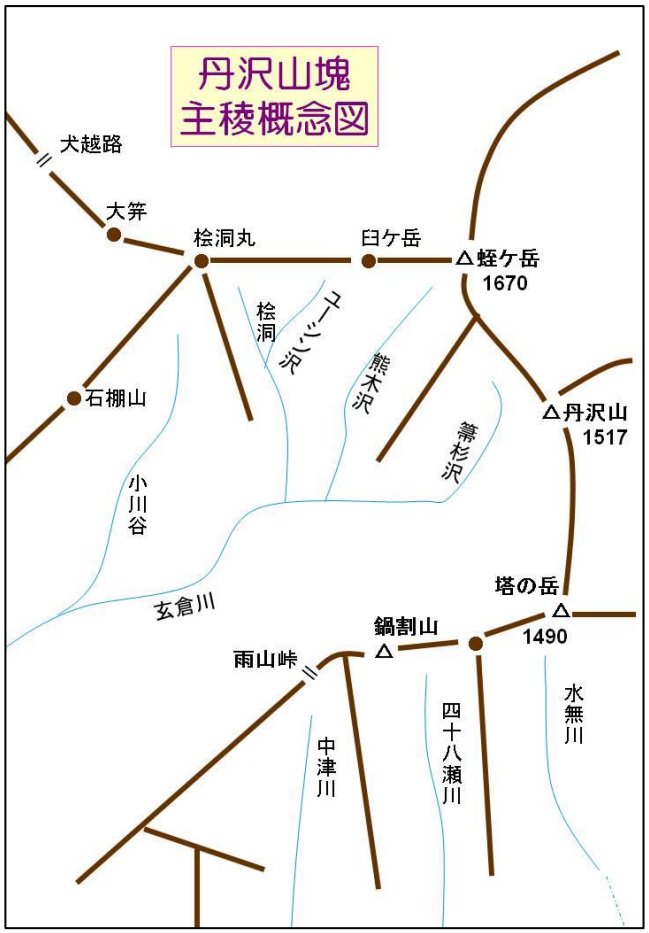
丹沢	主稜縦走（大倉尾根から犬越路へ）	No. 103

昭和43年2月4日(快晴)
今年は忘れられた山々「西丹沢（通称ニシタン）の尾根を歩いてみようという気になった。
丹沢は沢登りでは何度か入ったが、尾根歩きはあまりしていない。どうせ尾根を歩くのなら人の少ない冬が良いだろうと思い、今回の山行となった。単独行。
朝ゆっくり家を出て、南武線経由で渋沢に着いたのは12時21分。冬の渋沢駅は富士の眺めが実に美しい。
3776mというのはこんなに大きく立派なものなのかと思い知らされる。
駅前で軽食を買いそろえ、数人のハイカーとワリカンでタクシーに乗り大倉へ。歩き出したのは12時30分。
長く混雑する大倉尾根を避けて、水無川本谷から源次郎尾根経由で大倉尾根に上がることにした。
戸沢出合いまで約一時間、13時30分。出発時刻が変則的だったので一寸ずれた昼食。
14時出発、本谷を遡って花立下で大倉尾根に飛び出したのは14時55分。
しばらく相模湾、伊豆大島、房総半島、伊豆半島などと広がる眺望を振り返りながら歩いていたら、白い帽子の見覚えのある顔が・・・、吉野だ。
「やあやあ」と言うわけで草むらに腰を下ろして15時20分から15時50分迄雑談。ついでに、もう帰るだけの彼から食い物を譲ってもらい、彼は大倉へ私は頂上へ。
塔の岳（1490m）16時15分、もう日帰りの客は帰った後で静寂そのもの。
富士の左肩に沈みかけるオレンジ色の太陽を見送り、丹沢山（1517m）山頂の小屋の扉を開けた。
時計は17時。夕食は、家から持ってきたニギリメシにインスタント味噌汁、デザートはココア。
窓から厚木の街の灯りを見て床に就いた。



昭和43年2月5日
起床6時10分。ちょいと寝すぎてしまった。
7時に出発、気温は−8度。天気は悪くはないが、風に小雪が舞っている。
蛭ケ岳（1670m）8時。キジを撃ち8時25分出発。
西に曲がり臼ケ岳に向かう下りの道で、枯葉に隠れている氷に気がつかなかったのが運のつき。
見事に足を取られてスッテンコロリ。
そしてその時、右の足首から寒風に響く「ポキッ」という音。「アッ、やってしまった！」
恐る恐る足首に手をやってみると、手で力を加えてやらないと痛くて曲げられない。立ち上がることもできない。捻挫してしまったようだ。骨を折らずに済んだのは幸いだったが・・・・・。歩くことはできるが、右足に体重をかけることができない。
犬越路まで行って下るか、元の道を戻って下るか、どちらにしても大差はない。大室山と加入道山は諦めて、犬越路から下山することにする。
上りは良いが下りになると足の芯の芯に染みとおるような痛さ。平坦な道は片足で歩いたりで、まったくの牛歩状態になってしまった。
桧洞丸（ひのきぼらまる 1600m）10時50分。静かな山頂で、風に舞う小雪を肩に受けながら食事。

気温は0度。人っ子一人いない静寂の中を一匹の子リスが笹薮から笹薮へ走り抜けた。桧洞丸は別名青ケ岳とも言った。土地の言葉でカモシカを「アオ」と呼んだことが起源らしい。主に山の南面を青ケ岳と言ったようなので、玄倉川（くろくらがわ）の谷間から見た呼称らしい。昼食をとり11時45分出発。

大笄（おおこうげ 1510m）12時15分。私の歩く音（笹の響き）に驚いた四頭の大鹿が走り去ったり・・・・、なかなか味わえないような趣のある尾根歩きだが、足が痛いのに気をとられてどうも気分が冴えない。

大笄を過ぎると、目の前の大室山は一段と高く見上げる高さになり、やがて犬越路（1060m）13時30分。犬越路という名は武田信玄が小田原北条氏に攻め入る時、山犬を引き連れて峠越えをしたという話が起源らしい。山犬が怒涛のごとく駆け下りる様を想像しながら、ビッコを引き引き箒沢へ。

箒杉バス停に15時に着いたが、次のバスは16時15分発なので中川温泉まで歩くことになった。途中で後から来たトラックが乗せてくれて助かった。よほど惨めな歩き方をしていたに違いない。

中川温泉着15時25分、顔を洗ってラーメンを食べて、16時の新松田行のバスに乗った。

実につらい思いをした山行だった。単独行でのけがは怖い。あの程度ですんでよかった。

以上

（修正・更新：2023年12月）